伊豆急行 2100 系電車について

20 期 8 組 M.K

1．　そもそも伊豆急 2100 系とは？

静岡県の伊東駅から伊豆急下田駅までの間を運行する伊豆急行線。この路線は現在伊豆急が所有する元東急電鉄の 8000 系と JR 東日本の特急車両 E257 系、E261 系、そして今回紹介する伊豆急 2100 系が一般に運用されている。

2100 系は JR 伊東線の熱海駅から伊豆急下田駅を定期的に走行しており、普通列車として運転されている。その為、運賃を払えば別料金なしで乗車することが可能である。

2100 系 4 次車「黒船電車」

8000 系元東急 8000 系

E261 系特急サフィール踊り子号

E257 系特急踊り子号

上の写真を見ていただくとわかるように、伊豆急 2100 系は明らかに 8000 系よりも豪華な見た目である。内装も E257 系よりもいいのでは？と思う程しっかりとしている。この豪華さのおかげで 2100 系は今まで臨時で踊り子号を担当したりしてきたことが何度かある。次は車両の詳細について詳しく説明していきたいと思う。

２．　2100 系 R1 編成

2100 系は全部で 5 編成製造されている。製造は東急車両が請け負っており 7×3 と 8×2 の計 37 両製造されている。最初に製造された 2100 系 1 次車(R1 編成)は 1985 年に営業運転を開始した日本で 3 番目の展望車付き列車である。7 両を 1 編成としており、足回りは当時伊豆急行で走っていた 100 系電車の廃車で発生した部品を再利用している。この車両は観光客を満足させるために、先頭車と後尾車のフロントガラスを大型二枚式で取付け、客席は海側の窓を連続窓にして大きく広くしている。山側は中折れヒンジ式の窓を採用している。また、座席に関しては先頭車と後尾車の運転席付近は運転席方向に階段状に展望座席が配置されている。尚、展望席はすべての席で景色が見やすいように最前列から最後列にかけてだんだんと席の位置を高くしている。中間車の座席配置は海側に外を向く形でロングシートを配置し、山側はボックスシートとしている。また、全席に小型テーブルを完備している。塗装は山側を青色、海側を赤色の斜め線で塗装し、1 号車と 7 号車の展望席窓下側に izukyu のマークと客室扉に 2100 系の 21 という数字を現した塗装をしている。この塗装は今後製造される R2 から R4 編成の 2100 系に一度は採用されるオリジナルカラー塗装となる。この車両は翌年 1986 年に斬新なデザインなどの理由から鉄道友の会からブルーリボン賞を受賞している。そして当時流行していた温泉が伊豆にはたくさんあったこと、東京から短時間で行くことができるリゾート地であったことによりホテルがたくさん建設され、観光客が急増したということが 2100 系をさらに有名にさせた。この後 R1 編成は ATS-P を装備しリゾート 21 として走っていたが、2004 年下田港の開港 150 周年を迎えた時にマシューペリーが率いた黒船を模したデザインの黒船電車となり 2006 年に廃車となった。

3.　2100 系 R2 編成

R1 編成の次に登場した R2 編成は R1 編成と同じく 7 両編成で足回りも 100 系の

中古である。R1 と異なる部分はスカートくらいである。この R2 編成は製造後、東京急行電鉄に搬入され、田園都市線開通 20 周年を記念したイベント列車として新玉川線、池上線以外の路線で走行した。その後伊豆急行に搬入されて一般運用に入った。その後特に変化はなく 2009 年に引退後廃車となった。

4．　2100 系 R3 編成

R3 編成からは型が少しずつ変わっていく。この R3 編成は R1.2 編成とは異なり足回りを新品で構成している。尚、これ以降の 2100 系は新品の機器を搭載している。
製造後は R2 編成同様東京急行電鉄各線を走行した後に伊豆急行に搬入されるが、搬入後すぐに快速リゾートライナー(後のリゾート踊り子)として私鉄初の東京駅入線を行う。その後 ATS-P を増設し、運用をつづけていたが伊豆急行が創立 50 周年を迎える 2011 に最後の伊豆急のオリジナルカラー(R1・R2 編成は廃車、R4 編成は黒船電車化のため)をまとった R3 編成はオリジナルカラーでのイベント運行を行った後に伊豆高原の工場に入り伊豆急行創立 50 周年特別ラッピングであるリゾートドルフィン塗装で新たに運用を開始した。(計画ではオリジナルカラーイベント終了後に廃車の予定だった。) この塗装は伊豆急行 100 系電車の塗装を再現している。
そして 2016 年 2100 系全編成がリゾート踊り子運用を終了したため、リゾート 21 フェスタという祭りが開催され R3 編成はそのとき、R5 編成とともに伊豆高原の工場に入場した。これで R3 編成も廃車だろうと思った方もいるかもしれないがこの R3 編成、2100 系の中ではかなり運用されているにもかかわらず、まだまだ運用される。今度はどうなったかというと、伊豆の名物である高価な深海魚、金目鯛の PR のため、車体側面にグレーのグラデーションラインを引きそのほかの部分は赤で埋めるというこれまた特殊なデザインの列車 izukyu KINME TRAIN を翌年 2017 年に運用させた。設備で変わったものは行き先表示機である。今までは幕表示だったが、リニューアルにより

LED 化されていたのだ。また、車内は貫通扉を自動ドア化、6 両に伊豆の地域の紹介、残りの一両に金目鯛の博物館を作るなどして金目鯛の知名度を上げることに貢献した。
また、2019 年にとあるイベントのためまた工場に入場した。2019 年は現在でも親しまれている鉄道玩具のプラレールが登場 60 周年を迎える年である。その為伊豆急はタカラトミーと限定コラボしてイベントを走らせることになり、R3 編成を入場させた。そして完成したのが赤いプラレール号である。車両には窓や床などにプラレールの画像を印刷し、車内放送はプラレール宣伝キャラクターのてっちゃんが放送するという機能を追加した。このイベント列車は 2019 年の 6 月 31 日まで運転したのち元に戻す計画であった。そして驚くことに同年同月 15、16 日にあじさい彩る下田金目を食す旅号

という臨時団体列車が運転されていた。R3 編成初の横浜駅乗り入れに様々な人が驚いたという。

そして 2021 年 2 月 R3 編成はまた工場に入場した。理由は定期検査と潮風によってはがれた塗装部分をお色直しするらしいのだが、出場してきたときの R3 編成の姿に私は驚いた。なぜなら大幅にリニューアルされているからだ。まず外装だが、テールライトが金目鯛の目らしくなっていた。そしてもっと驚いたことは赤色塗装の部分が増えているのだ。前面に貼られていた resort21 のシールがはがされているうえに、天井の機器類まで赤く染められていた。その為、車両の屋根に反射した日光が駅の屋根を赤く照らしているのだ。また、車内は床の色が塗り替えられピンクグレー色になったり、金目鯛のキャラクターが作成されたり、コンセントが設置されるなど快適性や観光列車らしさが増している。このリニューアルされた R3 編成はもうしばらく活躍するようだ。

5．2100 系 R4 編成

R3 編成以降の車両はいろいろと変わってくる。この R4 編成は先頭車と後尾車の前面窓はバランスと耐久性強化の為今まで二枚だったが、ガラスの耐久性が増加した為視界を良くする理由で、なんと 1 枚で設計された。また、製造中に ATS-P も装備された。そして伊豆急のオリジナルカラーで搬入された。2004 年にはオリジナルカラーに花の絵が追加され伊豆フラワートレインとなった。この塗装のまま臨時特急フルール踊り子やシーリゾート踊り子運転されたが 2006 年に R1 編成廃車に伴う黒船電車消滅防止のため、この R4 編成が黒船色に塗装された。またロイヤルボックス(豪華なグリーン車)と呼ばれる車両を新造した。この車両は臨時特急運転時に増結される。車内は 360 度何処でも固定可能な回転式座席で、テーブルや様式トイレ完備の上特に素晴らしかったのは天井に付けた電飾なのだが、どういう事かというとまず、ロイヤルボックスは 100 系の時に初めて作られた伊豆急のグリーン車なのだが当時はグリーン車よりも性能が悪く(リクライニング機能はないうえに座席転換もできず、当時は当たり前だった喫煙が不可能だった為)あまり有名にならなかったが、今回黒船電車を使用して評判を上げようとするために、客室の天井に電飾で星空を作った。これは列車のトンネル進入時に天井に現れ、神秘的な光景を作った為乗客に大変人気だったそうだ。尚 R5 編成は製造時にロイヤルボックスが標準連結されたのだが、こちらは星空ではなく海中の魚たちを再現していた。そしてここ最近は臨時運用が減少したため、ロイヤルボックスなしで普通列車運転されている。

6 .

2100 系 R5 編成

R5 編成は伊豆急行最後に製造された 2100 系でありアルファリゾート 21 という愛称を持っている。歴代 2100 系にあと付けされていた ATS-P やロイヤルボックス、様式トイレはすべて製造時に装着され、まさにαな 2100 である。また外観に関しては歴代の 2100 系とは大幅に異なる。まず、全体が丸みを帯びた形状をしており、ライトボックスも丸形に設計された。エアコン機器が屋根から出っ張ってしまっていた今までの車両とは違い、丸みを帯びた屋根に埋め込むようにして目立たなくしている。また屋根もグレーではなく水色に塗装されるという独特な車両である。塗装は今までの伊豆急オリジナルカラーではなく、床屋さんに設置されているサインポールのような塗装をした為、一部鉄道ファンからは床屋さんカラーと呼ばれるようになった。運用は、リゾート踊り子運用が多く、よく東京駅に乗り入れていた。しかし、2016 年に R5 編成は東急電鉄のとある企画に使用されることが決まり、特別ラッピングをまとって走行したのち同年にリゾート踊り子運用から離脱。これにより、運用に入れる車両が少なくなった為、リゾート踊り子は廃止となった。

R5 編成の担当する企画、それは日本最大級の豪華列車「THE ROYAL EXPRESS」として横浜～伊豆急下田を結ぶという大規模なプロジェクトの主役になることであった。そしてリゾート踊り子運用離脱の翌年 2017 年に大勢の人々に見守られながら登場した R5 編成。珍しいながらも美しいデザインと豪華な内装で多くの人を驚かせた。その後 2020 年と 2021 年に、北海道胆振東部地震による被災地の観光復興と地域活性化を目的として、標準編成の 8 両を 5 両に連結しなおし、先頭端部に東急電鉄のマニ 50 系をつなげた北海道仕様の R5 編成を機関車けん引で北海道まで輸送した。尚、チケットは高額であるにも関わらず、直ぐに完売してしまうほどの人気であった。現在は北海道への観光客を取り戻すために一生懸命に北の大地を走っている。

参考文献

https://www.izukyu.co.jp/
伊豆急定規
https://camel3.com/cms/files/izukyu/MASTER/0300/Y0umaYcT.pdf
http://www.izukyu.co.jp/ir/newsletter/280715.pdf
http://www.izukyu.co.jp/ir/newsletter/281226.pdf
http://www.izukyu.co.jp/ir/newsletter/290526.pdf
http://www.izukyu.co.jp/ir/newsletter/281007.pdf